

## 第2回ひらつか男女共同参画推進協議会 会議録

令和7年12月19日（金）15時00分～16時40分  
平塚市庁舎本館7階 720会議室（1）

**出席委員 6人**（秋朝委員、長谷川（あ）委員、中津川委員、大津委員、阿部委員、宮本委員）

**主催者 3人**（武井人権・男女共同参画課長、平出主管、加納主査）

### 1 開会

- (1) 委嘱式
- (2) 委員自己紹介
- (3) 会議の公開について

### 2 挨拶

### 3 議題

（事務局） ここから、議事進行は会長に変わります。

（委員） 第2回ひらつか男女共同参画推進協議会の議題に入ります。

#### 議題1 令和8年度実施予定の市民意識調査について

##### 協議事項1 回答率を上げるための工夫について

（委員） それでは、議題1「令和8年度実施予定の市民意識調査について」事務局から説明をお願いします。

（事務局） それでは、議題1「令和8年度実施予定の市民意識調査について」説明します。資料1をお手元にお出しください。ひらつか男女共同参画プラン2024は、前期（令和6年度から令和9年度までの4年間）と後期（令和10年度から13年度までの4年間）に分けられております。令和8年度に、後期に向けた見直しのための基礎資料を得るに当たり、一般向けと若年層向けの市民意識調査をそれぞれ実施する予定です。対象年齢は、一般向け調査は18歳から79歳まで、若年層向け調査は13歳から17歳までとしています。配布予定数は、一般向け調査は3,000件、若年層向け調査は200件としています。回答方法はいずれも、郵送回収及び電子申請システムとしています。一般向け調査は、前回調査が令和4年9月、若年層向け調査は初調査となります。

協議事項が3点ありますが、まずは1点目「回答率を上げるための工夫について」説明します。

【冊子】令和4年度市民意識調査報告書をお出しください。1ページ目の2「調査の方法」の表に記載のとおり、前回調査は3,000件郵送配布して、うち宛先不明等で戻りが10件、有効回収数は1,368件、有効回収率は45.8%でした。この有効回収率を上げるために御意見を伺います。回答方法の内訳は、郵送による回答が1,031件、電子申請システムによる回答が337件でした。続いて、中央上部に「見本」と朱書きした角2サイズの封筒をお出しください。これは、令和4年9月調査の際に、実際に対象者に送付されたものと同じものになります。封筒には、対象者の住所と氏名が記載されたタックシールが貼られています。中には、調査についての説明、

調査票、回答した調査票を入れる返信用の封筒の3点が入っております。前々回からの改善として、イラストを随所に入れて親しみやすくしました。また、文字に濃淡をつけて読みやすくする工夫をしました。資料1に電子申請システムの回答画面を参考に載せておりますが、神奈川県のシステムであるため、レイアウトの大幅な変更はできません。このような状況を踏まえて、経費をかけずに回答率を上げるための工夫について御意見を伺います。説明は以上です。

(委員) 意見等がありましたらお願ひします。

(委員) 先日、イベントを開催した際、新たな試みとしてキャラクターショーを取り入れてみたところ、来場者が倍近く増えて活気があり、イベントは大成功に終わりました。このことから、本来の主旨から外れてはいるものの市民の関心が高い市のイベントの情報を載せることで、回答率のアップにつながるのではないかと思いました。

(委員) 「意識調査」という文言は、堅苦しくて手間がかかりそうなイメージがあり、多くの市民の方は敬遠してしまうと思われます。調査の目的や回答したことによってどのようなメリットがあるのか、分かりやすく記載する工夫が必要ではないかと思いました。

(委員) 回答したことによって自分にどのようなメリットがあるのか、また、回答に要する目安の時間について、初めに目にする導入部分に記載したほうが回答することを前向きに考えてくれる方が増えるのではないかでしょうか。

(委員) 調査票の封筒について、宛名のタックシールが貼られているだけで無味乾燥であり、封筒を開けずに廃棄してしまった方も多いのではないかと思われます。封筒自体にも、調査の内容や目的を簡単に記載する必要があると思われます。また、資料について、全体的に文言が難しい印象があるので、もう少し親しみやすい文言にしたほうがいいと思われます。回答に要する目安時間と電子回答が可能であることを前面に記載する、回答したことによってどのようなメリットがあるのか、市からの依頼であることを簡単に記載することによって、回答率のアップにつながるのではないかと思いました。若年層向け調査について、今回初めて実施するので報道機関も関心を持ってくれると思われます。報道機関に積極的に周知することによって、市民の認知度が上がって、回答率アップも期待できるのではないかと思いました。

(委員) 事前に情報がなく調査票が届くと、調査自体の理解が深まらないと思うので、事前の広報が必要だと思います。

(事務局) 前回も広報ひらつかや市のホームページ、公式ラインなどで、事前に市民に対して積極的に周知していますので、今回も認知度を上げるよう努める予定です。

(事務局) 公式ラインについて、従来、文字情報が主でしたが、画像情報にして市のホームページにアクセスできるよう改善したことによって、これまでより多くの市民の方に周知できるようになったことを実感しています。市民意識調査についても、同様に公式ラインで周知することで市民の認知度が上がることを期待しています。

(委員) あたかひらつかのロゴなどを積極的に使用して、親しみやすさを持たせることが重要と思われます。

(委員) 前回調査の回答者を年代別にみてみると、30歳代までの若年層が特に少ないことが分かります。若年層を含めて全体的に回答率を上げるために、説明文をもっと簡略化して手間がかからない印象を持たせることが重要になります。回答率を上げるということですが、何か目標はありますか。また、回答期限の日程についても慎重に検討した方が良いと思います。

**(事務局)** 前回調査の回答期限は令和4年10月7日（金）までとしましたが、その後に三連休があつたので、三連休後の11日（火）か12日（水）を回答期限としたほうが、三連休の間に回答してくれて、回答率が上がったのではないかという反省を踏まえて、回答期限の日程については、連休なども考慮して決めたいと思います。

**(委員)** 回答期限の1週間前くらいに、市の公式ラインで再度、回答のお願いを周知したら、失念していた方や回答を躊躇ってる方も回答してくれることが期待できます。

**(委員)** 市民の方が所属している団体や学校から、回答について働きかけを行っていただくことは可能なのでしょうか。

**(事務局)** 住民基本台帳から無作為抽出で選出しているため、選ばれた市民の方が所属している団体等を把握しておらず、働きかけを行うことはできません。

**(委員)** 回答したことによって、それがどのように活用されるのかを明確にしたほうが回答率のアップにつながると思われます。行動経済学におけるナッジ理論を参考にすれば、回答率のアップにつながる何らかのヒントを得られると思われます。

**(委員)** 「男女共同参画」という文言や、調査についての説明をもっと親しみやすくする工夫が必要と思われます。

**(事務局)** 「男女共同参画」という文言は、必要に応じて「ジェンダー平等」に置き換える予定です。また、説明についても簡略化して親しみを持てるよう検討します。

**(委員)** 無作為抽出で選出したとはいえ、何万人という市民の中から選ばれたことには変わりがなく、「市民の中からあなたが選ばれました」という旨の文言があると、特別感があり回答率アップにつながるかもしれません。

**(委員)** 全体的に文言が難しく堅苦しい印象があるため、「夢」や「希望」という文言を積極的に取り入れて、ワクワクするような封筒や資料の作成を心がけることが重要と思われます。

**(事務局)** ワクワクするようなものでないと、その中の資料をみて回答しようという気持ちにもならないと思うので、そのような視点での資料作りも研究していきます。

**(委員)** イラストを用いたり、漫画などを取り入れれば、より親しみを持てると思われます。

## 協議事項2 一般向け調査について

**(委員)** それでは、協議事項2「一般向け調査について」事務局から説明をお願いします。

**(事務局)** 協議事項2点目の「一般向け調査について」説明します。資料1の2ページ目（2）を御覧ください。「① 指標を把握するための設問（変更予定なし）」ですが、表に記載のとおり、プランの進捗状況を把握するために13の指標を設けております。そのうち7の指標は市民意識調査で数値を把握しています。数値を経年比較するために、設問の文言を変更しないことが望ましいため、表の上から問2、6、7、11、9、15の変更は予定なしとしています。基本方針2の「子どもがでてからも、女性が仕事を続けることについて、肯定的な考えを持っている市民の割合」はプラン2024からの新規指標なので、設問も新規で設けます。後ほど説明します。

続いて、「② 統計数値を把握するための設問（変更予定なし）」ですが、こちらも平塚市の現状を把握する統計として数値を把握しています。数値を経年比較するために、設問の文言を変更しないことが望ましいため、問3の12、問10の「された」の変更は予定なしとしています。

続いて、「③ 指標を把握するために新規に設ける設問」ですが、先ほど説明した新規指標「子ど

もができてからも、女性が仕事を続けることについて、肯定的な考えを持っている市民の割合」を把握するための設問を新規で設ける予定です。設問（案）は表に記載のとおりです。

続いて、「④ 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づく計画を盛り込むに当たり、新規に設ける指標及び設問」について説明します。この法律は、令和6年4月に施行され、第8条第3項に、「市町村は、基本方針に即し、かつ、都道府県基本計画を勘案して、当計画を定めるよう努めなければならない」と規定されております。プラン2024の後期に向けた見直しに当たり、この法律に基づく市町村計画をプラン2024に盛り込もうと考えております。それに伴い、進捗状況を図るため、数値目標となる指標案と、それを把握するための設問案を表のとおり記載しております。都道府県基本計画を勘案して、計画を定めるよう法で規定されているため、神奈川県の計画で用いられている指標及び調査の際の設問を引用しています。

資料2を御覧ください。こちらの資料は令和4年度調査の際に使用した調査票で、令和8年度調査に向けて修正点を朱書きしています。1ページ目は、フェイスシートと言って、回答者自身の属性などを回答するものです。上から、「性別」、「年齢」、「結婚」、「世帯構成」、「同居している子ども」、「就業」の順で構成していましたが、この順番だと、「就業」について、すぐ上の設問である、同居している子どもの就業を答えていると思われる回答が何件か見られました。従って、「性別」、「年齢」、「就業」、「結婚」、「世帯構成」、「同居している子ども」の順に修正しようと考えております。2ページ目から設問に入ります。先ほど、説明したとおり、指標と統計の数値を把握するための設問は修正しない予定です。3ページ目の問4は、この設問で把握していた指標をなくしたことから削除を検討しております。4ページ目の問5は、属性による傾向がなく調査結果に反映できなかったことから削除を検討しております。9ページ目の問16は、コロナ渦が過ぎて社会状況が変化したことから削除を検討しております。説明は以上です。

**(委員)** 意見等がありましたらお願いします。

**(委員)** 「③ 指標を把握するために新規に設ける設問」ですが、回答の選択肢の「べき」という表現に違和感を覚えました。

**(委員)** 「べき」を「ほうがよい」に変えるのが望ましいと思われます。

**(委員)** 設問の前提が、仕事を続けることが是という印象があるので、文言の修正が必要と思われます。

**(委員)** 自分の意思で仕事を続ける人もいると思うので、様々な状況に置かれている方がいることを考慮して、もう少し選択肢を増やすことも検討する必要があると思われます。

**(委員)** 問10におけるDVの経験についての設問ですが、「答えたくない」という選択肢を設ける配慮があつてもよいのではと思いました。

**(委員)** 問9、10の設問の構成だと、表に記載の言動がDVであるという前提の設問であるため、設問の構成を変える検討をしてはいかがでしょうか。

**(委員)** 表に記載の言動がDVに当たるという認識がない人もいると思われ、設問の意図を正しく理解されない可能性があります。

**(事務局)** 市民意識調査を実施する目的は、市民の意識と実態を把握することですが、他に市の事業や施策について広く市民に周知する狙いがあります。表に記載の言動がDVに当たるということ、また問11に記載のようなDVの相談窓口があることなど、市民の方に広く知っていただきたく、このような構成になっています。

**(委員)** フェイスシートにおける性別の選択肢について、「その他」に「答えたくない、わからないなど」を追記した意図はなんでしょうか。

**(事務局)** 自らの性別について、悩んでいる方がより答えやすくするための配慮として、追記しました。近隣自治体の動向も注視して精査する予定です。

### 協議事項3 若年層向け調査について

**(委員)** それでは、協議事項3「若年層向け調査について」事務局から説明をお願いします。

**(事務局)** 協議事項3点目の「若年層向け調査について」説明します。資料1の3ページ目(3)を御覧ください。後期に向けた見直しのため、若年層の意識や実態も取り入れるに当たり若年層向けの調査も実施する予定です。一般向けと若年層の回答結果を比較するため、同じ設問も設けておりますが、文章表現を易しくして、必要に応じてルビを振ります。また、用語の説明も別途作成します。資料3を御覧ください。問1、2、3そして問12は一部文言を変更していますが、一般向けと同じ設問で計12問としています。説明は以上です。

**(委員)** 意見等がありましたらお願いします。

**(委員)** フェイスシートにおける「③学校や状況」について、既に働いている方もいる年齢であり、所属先まで詳細に問う必要性があるのか検討する必要があると思われます。問3において、ひとり親家庭の方はどのように回答すればよいか迷うと思われます。また、若年層においてデートDVが深刻化しているので、DVの案内カードについての設問を設けて相談窓口を周知させることも検討してはいかがでしょうか。

**(委員)** フェイスシートにおける「③学校や状況」について、既に働いている方もいる年齢であるの、「働いている」という選択肢も設ける必要があると思われます。問3において、例えば、両親が揃っている家庭における「主に母親」という回答と、母子家庭における「主に母親」という回答では意味合いが違ってきますので、集計の際に注意が必要になります。

**(事務局)** フェイスシートにおいて、家族構成まで問えば、詳細な傾向も把握できますが、今回は簡易的な設問にして、調査結果はあくまで一つの傾向として捉えたいと考えています。

**(委員)** 調査を実施する前に、対象年齢と同じ若年層の方に調査票をみていただき、違和感がないかなど確認していただければ、有益な提案を色々いただけると思われます。

## 4 事務連絡

## 5 閉会

**(事務局)** それでは、以上をもちまして、第2回ひらつか男女共同参画推進協議会を閉会いたします。長時間どうもありがとうございました。

以上